

東京文化発信プロジェクト 平成23年度事業の評価について

成果

- 伝統文化、演劇、音楽、美術、映像、映画など、多様な分野で事業を展開し、芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供・青少年たちの育成、東京における多様な地域の文化拠点の形成、世界的な文化創造都市・東京のアピールと国際ネットワーク強化という4つの目標実現に向けて、着実に成果を挙げた。
- フェスティバル分野では、フェスティバル／トーキョー、六本木アートナイト、恵比寿映像祭などが、独自性の高い国際的なアート・フェスティバルとして定着しつつあり、創造発信のプラットフォームの形成にもつながってきている。
- キッズ・ユース分野では、キッズ伝統芸能体験、パフォーマンスキッズ・トーキョーが子供・青少年たちが本物を体験できるプログラムとして常に高い評価を得ている。
- アートポイント計画は、それぞれのまちの特性を活かし、エリアを拡大しながら地域に根ざした事業展開を行い、それに伴い、現場での人材育成も図られ、人材育成講座も機能し始めた。
- ネットワーキング事業は、東京に集積している文化資源を十分に活かし、世界に東京の文化を発信する持続的な国際ネットワークを構築する足掛かりを形成した。

課題

- プログラムの中には、充実し、認知度の高まっているものもあるが、東京文化発信プロジェクト全体としては、海外に十分に認知されるだけの発信力は、まだ不足している。
- フェスティバル分野では、回数を重ねたことにより、都民の間に定着しているものもあるが、伝統芸能公演、音楽事業などは、まだ存在感を高めていく段階にとどまっており、既存の枠に捉われない新しい取組を検討する必要がある。
- キッズ・ユース分野は、内容は充実しているが、事業の成果を幅広く周知する手法を検討し、より多くの子供・青少年たちに体験型事業を提供する必要がある。
- アートポイント計画は、プログラムの実施だけでなく、継続的な事業運営を行うための仕組み作りや効果的な広報展開もできるよう、スタッフの人材育成を行うとともに、各共催団体の自立も視野に入れた事業展開を図る必要がある。
- ネットワーキング事業は、東京の芸術文化活動をアピールするため、より一層、国際ネットワークを持続・発展する仕組みを検討する必要がある。

今後の取組

- 4年間の実績をふまえて、個々のプログラムについて見直しを行い、スクラップ＆ビルドにより全体の再構築を図るなど、更に効果的な事業展開ができるよう取組む。
- プロジェクト全体の発信力をより高めるため、東京クリエイティブ・ウィークの期間の延長、テーマ設定のあり方、プレスキャラバンなど、更に効果的な戦略を検討する。
- 文化事業に関心の高い層にプロジェクトの情報が行き届くよう、自治体や大学、他の文化イベントなどとの広報協力をより一層充実させるとともに、独自の発信力が高い学生等の若い世代を活用した広報についても検討していく。
- フェスティバル分野では、伝統芸能、音楽事業において、ジャンルを越えた新たなプログラムの展開を行うとともに、都立文化施設との連携を強化していく。
- キッズ・ユース分野では、既存の分野にとどまらず、これまでの実践のノウハウを活かしながら、学校・地域との連携を強化し、体験の機会を増やす方策や事業の成果を幅広く発信する方法を検討していく。
- アートポイント計画では、プログラム間の連携や現場と人材育成プログラムの連動など全体の事業フレームを見直すとともに、各共催団体の自立運営に向けた仕組みを検討する。
- ネットワーキング事業では、プロジェクト全体の海外への発信力を強化するため、参加者のネットワークの構築を強化するとともに、会議の運営方法や合理的な期間設定を検討していく。